

2026 年 5 月 12 日(火)6校時

1年次「理数探究基礎」写真コンテストを実施しました。

4月に実施した校外活動で収めた、身近な気づきに関する写真を共有しました。各班の展示を見学し、生徒による投票を行いました。自分とは異なる視点を持つ他班の気づきから、今後の探究活動のヒントが得られました。

<コンテストの様子>



次ページより表彰作品を紹介します。

<表彰作品>

第一位

1年5組9班

写真タイトル	忘れられた標識	撮影場所	湯河原町 不動滝の帰り道
--------	---------	------	--------------

この止まれの柱は真ん中に付いているのではなく、端側についている。普段意識していなかったが、真ん中にあった方がバランスを取りやすくて良いのではないのだろうかと思った。そこでこの止まれの標識は坂となにか関係していそうだと不思議に思った。また、コケのような色のものが繁殖しているように見える。植物に関係ないものでも全体に広がって言っていることが不思議に感じた。



第二位

1年1組8班

写真タイトル	艶やかな防衛線	撮影場所	箱根町 彫刻の森美術館
この葉だけ明らかにギザギザしているのに疑問に感じた。元々このような葉だったのか、進化の過程で身を守るためにギザギザになったのか。どのような理由があるのだろうか。			
			

第三位 ※同率2班
1年 1 組 6 班

写真タイトル	ちょう でかい ちょう	撮影場所	生命の星地球博物館
博物館で海外の虫のコーナーを見つけたときに、そこにいる虫それぞれが一目見ただけでも日本のものと比べて大きいなと感じた。また、虫の下にあるキャプションを見て、それらの種が熱帯や亜熱帯など暑い気候の地域の国のものであることが多いことにも気づいた。さらに、ここまで身体を大きくすると、エネルギーを多く消費してしまうと考え、身体を大きくすることによる利点はあるのか不思議に思った。これらを踏まえ、何故熱帯などの環境では虫の大きさがここまで大きく変化するのまた、大きくすることによる利点はあるのかという疑問を得た。			
			

1年5組1班

写真タイトル	湖岸と山の植生の違い	撮影場所	芦ノ湖
箱根海賊船にのっていたところ、湖付近に生えている植物と、それらよりも高い位置にある植物で違いがみられた。針葉樹と広葉樹できれいに生え方が分かれていることも確認された。 なぜ同じ湖の近くに生えている植物なのに、生える植物が違うのかについて疑問を持った。			
			